

那須平成の森だより

自分だけの自然に出会う

第14回 「インタープリターのエピソード」僕にとっての学びとは

那須平成の森には現在9人のインタープリターがいますが、僕もその一人です。直接来園者と触れ合う、最も現場に近い仕事です。僕はここで5年以上働いていますが、那須平成の森で仕事をしていくなかで、自分自身が変化していることに気づいてきました。

一年目の新人の頃、プログラムで子どもたちと一緒に森を散策していました。何か面白いものを見つけて喜ばせたい！と焦っていた自分は、素材を見つけてるのに集中していました。突然、一人の少年が「フクロウだ！」



現場でどのようなやりとりが生まれるかはインタープリター次第です



子ども達の視点は一人一人ユニーク!!それらをうまく学びにつなげていきます

と叫びましたが、彼は今までの道中でも、動物を見つけたかのように叫ぶことがあり、僕は彼に少し振り回されていたので、信じて素材探しを優先しました。すると、彼が前方の木に向かって急に走り出し、そしてそこに止まっていた本物のフクロウが遠くへ飛び去って行きました。僕は千載一遇のチャンスを見逃しました。

この時僕は、相手を信じ、理解し、寄り添う事が大事だという事を学びました。その上で参加者が求めるものや、参加者が持っている知識・価値に、那須平成の森の魅力、ここにしかないものを結び付けていく。何回か失敗しながらもこのような手

法が、ようやく体に馴染んできました。今では、この「学び」のサイクルが、日常生活の様々な場面で役立っています。

僕がこの仕事をしていて面白いと感じるのは、相手と一緒にあって「学び」を作り、それを自分の価値として成長できることです。来園者の方から、自分では気づきもしないような事や思いもよらないアイデアを頂く時、自分の視点が広がり、自然や人に対する価値観が深まります。そのような感覚を体験できるのは、この仕事ならではのと思っています。

那須平成の森フィールドセンター
インタープリター 丸子哲平



災害は、忘れたころにやってくると言いますが、近年は忘れる間もなく全国各地で局地的豪雨などによる災害が発生しています。本格的な台風シーズンに前に、8月号では災害に備えるための特集を掲載しました。

▼町は、平成10年と11年に集中豪雨により被災しました。当時の様子をまとめた「那須水害復

興の記録」によると、平成10年8月の集中豪雨では、「26日から31日までの6日間で1259mmの雨量を記録」。「一時は1300名を超える町民が避難する事態」とあります。梅雨は明けず、まだまだ気が抜けません。

▼先日、「時間のあるときに」と先延ばしにしていた避難時の家庭の持ち出し品の整理を行いました。▼携帯電話の充電器など、普段から使うものは持ち出し用のものを購入しました。飲

料水や常備薬など消費期限があるものや、子どもの衣類などは定期的な点検が必要だと感じました。▼災害時を想定して、家庭内で、電気やガス、水道が使えないという設定で、非常時の持ち出し品を使い一晩過ごしてみろという方法もあるといいです。▼夏休みの自由課題として親子で取り組んでみるなど、災害時の避難方法や避難場所などを、日頃から家庭内で話し合うことも大切です。

こんにちは 赤ちゃん



令和2年8月7日生

益子 檜ならくん(上町) 父 朋之さん 母 恵さん

檜くんは…
お散歩大好き♪伊王野のまちなかを毎日パトロールしています。今日も異常なし!

「こんにちは赤ちゃん」コーナーの写真を随時募集しています。
詳しくは総務課広報広聴係(☎72-6901)まで。

町の世帯と人口 (7月1日現在・住民基本台帳) ()の数字は前月比

●世帯数	10,518世帯 (+15)	出生	1人 (- 8)
●人口	24,697人 (+14)	死亡	25人 (- 3)
	男 12,291人 (+10)	転入	72人 (- 3)
	女 12,406人 (+4)	転出	33人 (-14)
		その他	1人